

第 20 回世界都市計画の日“メッセージ”

1969 (昭和 44) 年 11 月 8 日

飯 沼 一 省

Message for The 20th World Town Planning Day by Issei Iinuma, President,
Japanese Committee for the World Town Planning Day Nov.8' 1969

It is my great honor to express a few words of greeting on behalf of the Japanese Committee for World Town Planning Day to people throughout the world who have special concern about town planning.

We have been tackling, all the while, with the task of town planning, intending to bring about such an environment as will enable all the people, both in town and country, to live in good health and happily.

And yet, through our long experience, we have found that the work is really a difficult one. Nevertheless, we must not be discouraged at this stage, because the public has never shown so much concern and expectation on town planning as it does now.

It is quite heartening to know that, year after year, more and more people in each country are coming and joining the field of planning with their bright ideas and hopes.

So, on this Twentieth World Town Planning Day, let us all join hands and pledge to take up our fresh courage, and do our utmost for the sake of our noble purpose and duties.

出典：『新都市』23 卷 11 号（昭和 44 年 11 月号）都市計画協会 3 頁

このメッセージの録音テープは、公益財団法人都市計画協会内の飯沼一省関係資料中に保管されており、日本語及び英語で収録されていた。

このメッセージ録音は、1969 (昭和 44) 年 11 月 8 日の第 20 回「世界都市計画の日」に当たり、録音テープが、既往の Focus Country 19 か国に贈られるとともに、上野精養軒で開催された「世界都市計画の日」日本集会において披露された。

このメッセージを発信した経緯と反響については、飯沼自身が記しており、次頁に掲げる。



日本集会祝賀会で談笑する飯沼会長
(『新都市』24 卷 1 号昭和 45 年 1 月号
25 頁)

世界都市計画の日

飯沼一省

毎年11月8日は、「世界都市計画の日」と定められており、この日を期して世界中の都市計画に関係をもっている人々が、共に激励し、慰め合い、助言をして、感激を新たにすることとしている。

これは1950年（昭和25年）、アルゼンチンのブエノスアイレス大学教授であったパオレラ氏の提唱によって創設されたものであって、爾来毎年 FOCUS COUNTRY（中心国）と、その国の「都市計画の人」とをきめて、世界各国からこの人に宛てて祝電等が寄せられるのである。

1969年（昭和44年）の FOCUS COUNTRY は、日本ときめられ、わたくしとその都市計画の人として指名された。そこでわたくしは次のようなメッセージをテープに録音して、加盟各国の委員長あて発送した。

「私共は、すべての人々が、それは都市に住めると農村に住めるとを問わず、健康にして幸福な生活を営みうるような環境を造ろうとして努力して来ました。そして永い間の体験によって、この仕事のまことに困難なものであることを知りました。しかしわれわれはここで挫折してはなりません。なぜならば世間が今日ほど都市計画に対して深い関心と期待とを寄せていることは曾てなかったからであります。（中略）そこで本日の第廿回世界都市計画の日に当り、われわれお互に手をつないで、新しい勇気を奮い起して、われわれの崇高なる使命と責務とのために、最善の努力を尽すことを誓おうではありませんか。」

すると世界各国から沢山の祝電、祝辞を頂いた。中にはこれまで聞いたこともないような小さな都市からも、幾通かの祝辞が寄せられた。例えばイスラエルのハイファとか、智利の VINA DEL MAR とか、スコットランドの AYR とか RUTHER GLEN とか、北愛蘭の ENNISKILLEN、伊太利の PARMA、瑞西の LUTRY (VAUD) とか、世界地図をひろげて、ようやく探し当てたような始末であった。ことに ENNISKILLEN からの手紙には、「会員のビル・トーマスさんから都市計画について、興味ある講演を聞きました。同氏はわれわれの郡の都市計画主任技師です。」と書き添えられていた。ほほえましい話である。いずれにしてもこんなに世界都市計画の日の趣旨が、世界の隅々にまで普及しておったのかと、驚かされたことであった。

出典：飯沼一省『担江独語』1975年・財団法人報国会

著者略歴（同書による。）

明治25年会津若松市に生る

大正6年東京帝国大学法科大学卒業

内務省都市計画課長、埼玉、静岡、広島、神奈川各県知事、神祇院副総裁、内務次官、東京都長官歴任

財団法人都市計画協会、同東京都公園協会、同東京都動物園協会、同報国会各会長